

## 1 春日山城跡を活かした更なる観光振興策について

- (1) 春日山城跡関連施設は、通年観光ができる上越有数の歴史的観光資源だが、これを一大観光拠点にするため、戦国の山城「春日山城一部復元」を官民共同で検討する考えはないか。

## 市長答弁

最初に、春日山城跡じょうあとを活かした更なる観光振興策についてのお尋ねにお答えいたします。

上杉謙信公の居城春日山城跡じょうあとは、廃城から400年余りが経過した今もなお、多くの人を引き付けてやまない、有数の歴史資産であると認識しております。

春日山城の一部復元についてのお尋ねであります。国指定史跡地内で今は失われた建物等を復元する場合、史実に基づき、また文化庁が定めた基準を十分に満たす必要があります。しかしながら、これまでの調査研究ではその状況には至っておらず、残念ながら復元を議論する段階にはありません。また、推定による建物等の建設は、当該史跡の正しい理解の支障となることから、慎むべきものと考えております。

いうまでもなく、春日山城跡じょうあとは中世を代表する山城であり、空堀からぼりや土塁どるいを巡らす「敵に攻められにくい」という山城ならではの構造が独特の雰囲気漂わせ、他のどこにもない「本物」の魅力が備わっています。建物等の復元が困難な見通しにあることを現実的に踏まえる一方で、

この春日山城跡<sup>じょうあと</sup>の魅力や価値を市内外に発信するために効果的な整備のあり方について、様々腐心してまいりましたが、実施可能な最善の整備手法として、往時の面影が残る約 100 年前の山容<sup>さんよう</sup>をとらえた写真を参考に、春日山の姿を復元することを目指し、山に繁茂<sup>はんも</sup>する杉の伐採等を進めてまいりました。昨年 3 月の北陸新幹線開業までに、山頂の本丸跡をはじめ三の丸跡にかけての伐採が完了し、幾段<sup>いくだん</sup>にも区切られた曲輪<sup>くるわ</sup>や堀が、市街地からもはっきりとわかるようになり、山城らしい山容<sup>さんよう</sup>が明らかとなったところであります。

このような中、昨年 6 月には、春日山城跡<sup>じょうあと</sup>の国史跡指定 80 年を記念するシンポジウムを、上越教育大学や地元の春日山城跡保存整備促進協議会の皆さんと共に開催し、参加された多くの市民の皆さんとこれからの春日山城跡<sup>じょうあと</sup>の保存や整備の方向性を探る貴重な時間を共有することができ、こうした取組の積み重ねこそ、ご提案の「官民共同」につなげていく現実的な姿と考えております。

市といたしましては、今後もさまざまな機会を捉え、春日山城跡<sup>じょうあと</sup>に熱い思いを寄せる市民の皆さんとともに、春日山城跡<sup>じょうあと</sup>の理解を深め、あるべき姿について検討してまいりたいと考えております。